

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270600356		
法人名	有限会社 十和田だいち		
事業所名	グループホーム はなは		
所在地	青森県十和田市大字藤島字中道52-1		
自己評価作成日	平成28年8月1日	評価結果市町村受理日	平成28年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成28年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームはなは代表取締役で、母体医療法人運営者でもある代表は、開設当初から入居者様を第一に尊び、敬い、優しく、大切にとの思いは揺るぎなく、事ある毎に言葉にされたり、触れ合っている。また、医療面に関しても絶対的安心の下、職員は運営方針とすり合わせ、志気を高め、入居者様への日々の生活支援、ケアに勤むことができており、職員の就労や健康面、人材育成、質の向上のための研修にも積極的に支援をいただいている。関連施設間で医療、看護、介護の3軸で展開されている「60歳からの主張、弁論の集い、作品展」は地域に浸透されつつあり、全戸に案内書を配布したり、掲示して、随所において協力をいただいている他、地域で行われた地域包括支援センターと地区合同での「認知症高齢者徘徊模擬訓練」にも、地域のグループホームとして職員が多数参加し、地域住民の方々と相互に支え合い、助け合う姿勢が更に示されている。職員は基本理念である「心が癒やされ安らぎのある家庭的な家」を常に心がけ、入居者様が笑顔で暮らせるよう向上心を持ち、やりがいを感じながら、日々、入居者の皆様と接している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域社会との交流を深め地域に貢献し愛される家(はなは)」、「心が癒され安らぎのある家庭的な家(はなは)」を基本方針・理念として掲げている。廊下や事務所等、常に目のつく所に掲示し、日々振り返りできるようにしている他、理念・基本方針を基に、年度初めに職員個々の目標を立て、意思統一に向けて取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の総会や催事等に参加し、地域の方々との交流を深めている。また、関連機関が主催して行う弁論大会の弁論者として出席いただいたり、作品展示会の作品提供等で協力をいただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で取り上げたことがきっかけとなり、町内の方々から要望が出され「徘徊模擬訓練」が町内の方々、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、認知症サポーター、その他事業所との協力により実施され、当事業所も地域のグループホームとして参加し、認知症への理解につなげることができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回定期的に行い、町内会やご家族の方々、市職員で構成され、皆様からの助言や情報提供をいただきながら、サービスの質の向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席や、生活保護の方々への支援で必要な事等、助言をいただいている。地域包括支援センターとはキャラバンメイト活動や、地域で行われた徘徊模擬訓練当等で連携・協力し、実施することができている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年度初めの現任研修において勉強会を行う他、定期的な会議や日々のミーティングの中でも、事ある事に身体拘束について再確認を行い、「身体拘束をしないケア」に全職員が意思統一して、協力しながら業務に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年度初めの現任者研修での勉強会の他、身体的な虐待は勿論、言葉による虐待についても日々のケア内容を振り返って確認し、入居者様に対して不快な思いや無理強いしないケアに向けて取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する内部研修を行っている他、今までに何人も利用された方がおり、現在は1名利用し、成年後見制度利用も2名おり、最近まで利用されていたため、職員は周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明にはご家族に時間調整をしていただき、ゆっくりと時間をかけて、説明と不安事を解決しながらできるように配慮している。また、ご家族にはいつでも相談に応じることを伝え、安心して利用していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様とはコミュニケーションを大切に、日々のケアの中で行動や表情、変化等から思いをくみ取るように見守り、接している。ご家族には面会時や電話等で入居者様の様子を伝え、お互いが入居者様のことを大事に考え、気兼ねなく相談できるような信頼関係づくりに努めている。玄関には意見箱を設置し、意見や要望等を収集できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1日2回の申し送り、各館毎の定例会議、月1回のスーパーバイザーを迎えての施設全体会議等で意見交換を行い、職員からの要望が反映されるような環境づくりに努めている。職員の異動は不定期であるが、日頃から各館との交流を持ち、馴染みの関係ができていますので、入居者様の混乱は見られない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活環境を考慮し、休みの希望はほぼ受け入れ、急な勤務変更があっても3ユニットで協力し合い、働きやすい職場づくりを行っている。年に1回の健康診断や、インフルエンザの予防接種を行い、再検が必要な人には必ず再検してもらい、健康を維持できるように代表者は配慮しており、職員は安心して就労できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員のスキルアップを推奨し、外部研修へ積極的な参加を勧めている。資格取得にも支援していただき、研修の機会を作り、休みの調整を図っている。また、月1回の全体会議では、内部研修・外部研修の報告等で職員が知識を共有し、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと定期的に交流を持ったり、同業者が行っているケアの情報を参考にしている他、系列内で行われる勉強会に参加し、そのような中で得た知識を、入居者様のケアに反映させている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報提供を基に、入居者様の不安な思いを察し、コミュニケーションの中で思いの把握に努め、本人の立場に立った支援に向けて、安心して暮らしていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の心配事、要望等は十分な時間を作り、傾聴、共感、話しやすい雰囲気づくりを心がけ、不安な気持ちを緩和している。また、入居後も入居者様の様子を伝えながら相談、協力し、共に支え合っていくことを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関や担当ケアマネージャーと連携し、入居者様の情報収集を行い、入居者様の思いやご家族の希望を取り入れながら支援内容を検討し、入居に向けている。希望があれば見学も受け入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場は入居者様主体であることを常に意識し、入居者様の力量を見極め、生活の中での役割を持っていただき、その中で職員は常に感謝と労いの気持ちを伝えることを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の便りの他に、遠方にご家族には電話をして本人の様子を伝えたり、ご家族の思いを伺い、相談しながら、良好な関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会は勿論、以前生活していた近隣の友人や仲間の方が面会に来られ、交流が継続されている。職員はその方々が気兼ねなく訪ねて来られるような雰囲気づくりを心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	BPSDによる入居者様間のトラブルがあるが、常に状況を判断し、トラブルを未然に防ぐことができるよう職員が介入して、場面の切り替えや気分転換につなげることで対応している。入居者様・ご家族の了解の下、居室を変更する場合もある。日常的な手伝いを協力しながら一緒にすることで、良好な関係づくりにつなげている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい環境の中で入居者様、ご家族が安心して希望する生活を営めるように、生活の様子やケア内容、希望等の情報提供を行い、支援している。ご家族には退去後も相談に応じることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より入居者様と向き合い、コミュニケーションを図る中で、安心した気持ちで自然と自分の思いを表出できるような雰囲気づくりに配慮し、思いの把握に努め、職員間での情報共有を図っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時はアセスメントシートに沿って、ご家族やケアマネージャー、関係機関から情報収集を行い、入居前の生活を安心して継続できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身の状態や出来事、変化、言動、BPSD等を、申し送り時やケース記録に記入して情報共有し、共通認識を持って、入居者様の残された力を大切にケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の心身の状況や思いを把握しながら、モニタリングやご家族の要望も含めてサービス提供者会議において検討し、介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の気づきや変化、健康状態をケース記録や申し送りノート等で情報共有し、定期的にモニタリングやミーティングで介護計画の見直しを検討し、職員共通のケアに向けて実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が対応している病院受診でも、ご家族の都合がつかない時には施設で対応している。また、行きつけの美容院希望の方には送迎介助を行ったり、ご家族が遠方の方は私物購入等の依頼にも応じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の施設への理解と協力により、運営推進会議への出席、季節事の町内会行事参加、また、災害時には、町内会長や消防団等、主要な方々が連絡網に加わって協力体制も整えており、地域の中で安全で且つ楽しみを持って生活できる環境となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者でもある主治医は毎朝施設を訪問し、入居者様一人ひとりの体調面を気遣いながら、挨拶、コミュニケーションを取り、体調面の不安事にも耳を傾けて、入居者様の安心につながっている。複数の病院に雇っている方はご家族が受診の付き添いをしている方もあり、施設では送迎介助の支援を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェック表や介護職員からの情報提供により、入居者様の状態把握及び健康管理を行っている他、急変時や異変時には夜間でも対応できるよう、24時間体制で連絡が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は認知症状や生活の様子等の情報提供を行い、ご家族と協力し、情報交換をしながら、入居者様が安心して治療が受けられるように配慮している。退院後のケアについてはご家族と一緒に話を聞き、相談・協力を得ながら、適切な対応ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた支援の方向性、ホームとしてできる事、できない事を説明し、都度、一人ひとりの健康状態を観察して、本人やご家族、主治医と連携しながら対応していく体制となっている。ただ、終末期になり、医療的処置を希望されるご家族とは十分に相談し合い、安心して最期を迎えられるよう、住み替えの支援も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを整備し、常に目のつく場所に掲示している。また、ミーティング等で、看護師も含めた対応の再確認をする等して、迅速な対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。災害時の対応として、消防団員を含めた地区の方々や関連施設職員を含めた緊急連絡網を作成し、協力体制を整えている。また、市と福祉避難所の協定を結び、災害時用の備蓄品も確保している他、施設内及び入居者様全員の状況把握ができるように、災害時用に持ち出しするファイルを作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい生活を支えることを常に意識しながら、一人ひとりの思いに沿えるよう対応している。入浴時や排泄時には言葉かけや十分な気配りをし、プライドを傷つけないような対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションや些細な行動から、その方の望んでいる事をくみ取り、思いに沿ったケアができるよう、常に入居者様の目線に立ち、声がけ、気づきを基に自己決定を大切に進めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペース、身体状況に合った生活スタイルを大切に、個別ケアを行っている。日々変化があるので、その時々に入居者様の思いを聞いたり、感じ取りながら、体調観察等も含めて確認し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は訪問美容室を利用されている方、ご家族が気分転換も含めて対応されている方、施設で送迎して馴染みの美容院に通っている方等、個々の希望にて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中で好きな食べ物を聞いて献立を作成したり、夏は施設の畑の野菜の成長を楽しみ、収穫・加工の手伝いをしてもらい、食事の時にはその話をしながら味わい、楽しみながらの食事の時間となっている。また、誕生日や催事の際には昔馴染みの献立を取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況に応じて、食事の時間や食事量、食事形態等を個別対応し、その時々での献立や状態に応じて変化をつけ、提供している。食事・水分摂取確認表に記録し、摂取量の把握を行い、不足分を補うよう工夫している。また、ご家族からも補食購入の協力を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは感染予防、健康維持等につながることを職員は理解しており、毎食後、口腔ケアは欠かせず行うことを励行している。入居者様の今までの習慣を理解しながら、無理なく、徐々に習慣として継続できるように、気分やタイミングを見て行っている。定期的なコップ・歯ブラシ・義歯の消毒を行い、就寝の際には義歯を外して休んでもらうことを進めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、個々の排泄パターンを把握しており、事前のトイレ誘導を行い、トイレでの排泄に向けて対応し、皮膚トラブルの防止や気分良く過ごしていただくことに努めている。トイレを拒否される方は誘導時の声のかけ方や移動手段を工夫することで、無理なく進められるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維の多い食材や乳製品を多く取り入れ、バランスの良い献立作りに取り組んでいる。また、一日の水分摂取量の目安を決め、個々の摂取状況に応じて、飲み物の工夫をして確保につなげている。希望や摂取状況によっては個別購入も進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴日を設けており、入浴前には本人の意向を確認しながら進めている。拒否がある方には時間を置いて再度声がけするが、別途入浴日を設けて対応する場合もある。入浴時間や湯温、浴室温度等を調整し、身体に負担のないように注意している。また、寝たきりの方は安全に配慮して、職員二人で介助を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況に応じて適度に休憩時間を設けたり、就寝時間も本人の希望に合わせて、スムーズな入眠につながるよう声がけをして促している。その中で昼夜逆転とならないように、日中の活動を促したり、就寝前には穏やかな気持ちで過ごせるように、接し方や落ち着いた環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容・効能等を記載したカードを作成し、服薬の都度、薬とカードを確認しながら服薬介助を行っている。また、誤薬防止のために、服薬時は日付・名前・服薬することを声を出して言うことで、他職員にもわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の身の回りの事はできるだけ自分でできるように環境を整えたり、共同生活の中での日常的な洗濯物たたみや茶碗拭き等を、入居者様で協力して手伝っていただくことで、生活の張り合いとなり、また、その中でお互いが協力してコミュニケーションを取り、楽しみながら取り組めるようにしている。また、1ヶ月に1回、音楽療法ボランティアを受け入れたり、関連施設での認知症カフェに参加することを楽しみ事として取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院への支援はご家族の協力を得ながら、ご本人の希望時に都度対応している。町内行事や関連施設行事、当施設行事等は入居者様の意向に沿って支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方がいないため、ご家族の了解を得て少額を小遣いとして預かり、入居者様がいつでも希望時に使えるようにしている。預かり金の用途については事前にご家族と相談し、毎月、収支明細表に領収書を添付してご家族に渡し、確認印をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族にはいつでも気兼ねなくお電話くださるよう伝えており、近況報告の際には本人に取り次ぎする等して支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じてエアコン、床暖房、空気清浄機、加湿器等の器機を使用している。また、適度に室内の空気の入れ替えを行ったり、陽射しの調整を行う等、快適な環境づくりに配慮している他、ホールは外が見渡せ、四季折々の景色を感じてもらえるようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の場として食卓席やホールソファ、和室等があり、その時の気分に応じてテレビを見たり、音楽を聴いたり、また、レクリエーションの場として仲間同士で楽しく過ごせるように、職員が見守り、関わりながら過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は本人・ご家族と相談し、使い慣れている物や大切にしている物等を持ち込んでいただき、安心して落ち着ける居室づくりに向けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	重度化が進み、車椅子利用の方が多くなっている状況の中、環境面では車椅子移動に障害とならないよう、広いスペースの確保に努め、自立歩行の方も安全な移動ができるように配慮している。また、居室・トイレはわかりやすいように表示の工夫をしている。		